

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	173	沖縄らしい風景づくり支援事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(5)-イ-①			
担当部署名	土木建築部 都市計画・モノレール課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄固有の景観・風景・風土を重視した魅力的な景観形成 Ⅲ-10-(1)		
事業内容	沖縄らしい風景づくりに必要な広報啓発、人材育成、景観アセスメント及び沖縄県景観向上行動計画の見直し検討を行う。						
効果発現年度	■当年度    ■後年度(R13年度)						
実施方法	□直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,574		12,825		66,500
		(b)予算現額	14,574		12,825		66,500
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	14,574		12,825		66,500
	B. 執行済額		14,224		10,241		62,800
	うち交付金充当額		11,379		8,193		50,240
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		97.6%		79.9%		94.4%
予算の状況の説明		・令和4年度は、沖縄らしい風景づくりに必要な広報啓発、人材育成、景観アセスメント及び沖縄県景観向上行動計画の見直し検討に係る委託料及び旅費等の経費を計上したところであり、シンポジウム、人材育成、景観評価システム及び沖縄県景観向上行動計画の改定を実施した。 ・執行率は94.4%であり、主に委託料の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①シンポジウム開催回数	目標	1回	1回	1回	1回	
		実績	1回	-	1回	1回	
	②人材育成の実施	目標	350名(6地区)	350名(6地区)	-	350名(6地区)	
		実績	391名(6地区)	-	-	422名(6地区)	
	③景観評価委員会の開催	目標	本格運用10件	本格運用10件	本格運用10件	3回	
		実績	本格運用5件	本格運用8件	本格運用10件	2回	
	④沖縄県景観向上行動計画の改定	目標	-	-	-	改定	
		実績	-	-	-	改定	
進捗状況説明	①沖縄の風景づくり復帰50周年記念事業として県民の風景づくりに対する意識向上に向けたシンポジウムを1回開催した。 ②地域の景観向上への取組をリードする地域人材育成を6地区において実施した。 ③道路、河川、公共建築、の8件において景観評価システムの運用を行い、景観評価委員会を2回実施した。 ④沖縄県景観向上行動計画について、10年間の取組の検証を行い、同計画を改定した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(H24年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R13年度)
	①シンポジウム参加者	目標	200名	200名	200名	200名	
		実績	362名	-	479名	433名	
	②講習会等参加者	目標	-	350名	-	350名	
		実績	-	-	-	422名	
	③景観アセスメント数	目標	-	10件	10件	10件	
		実績	-	8件	10件	8件	
	④市町村景観計画の策定・改定数(累計)	目標	-	-	-	49	
		実績	-	-	-	44	
	【R13成果目標】景観アセスメント数(累計)		目標				168件
【R13成果目標】市町村景観計画の策定・改定数(累計)		目標				82	
達成状況説明	①沖縄の風景づくり復帰50周年記念事業として開催したシンポジウムの参加者数(公開後視聴者含む)は目標を達成した。 ②地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村及び実施地区と連携を図りながら各種研修や人材育成を実施し、参加者数は目標を達成した。 ③道路、河川、公共建築、の8件において景観評価システムの運用を行ったが、事業の進捗を踏まえ、2件においては今年度の実施を見送った。 ④景観計画未策定の市町村の策定及び景観計画策定から長期間が経過している市町村の改定が進まず目標数を達成できなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①過年度は、新型コロナウイルスの影響により、人材育成の取組を実施できない状況もあった。</p> <p>②シンポジウム等の開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症に係る各種通知文書等を踏まえた上で、新たな生活様式に対応した適切な開催方法の検討が必要である。</p> <p>③景観評価システムの目的や仕組み等について、県事業担当者の知識の深化が必要であり、景観評価システムの対象事業について、早い段階から事業課と連携する必要がある。また、県内には景観設計の十分な経験及び技術力をもつコンサルタントが少ない状況にある。</p> <p>④景観計画策定から長期間が経過している市町村も多い状況にある。</p>	<p>①地元市町村及び実施地区と連携の上、地域住民の景観への関心を高めるために長期的な視点から継続した人材育成の取組が必要である。また、コロナ禍における人材育成の取組方法について検討が必要である。</p> <p>②景観に対する県民意識の向上に効果的な広報啓発に向けて、シンポジウム等の複数回の開催やインターネット配信等、適切な開催方法の検討が必要である。</p> <p>③景観評価システムの円滑な運用に向けて、定期的な部内周知や事業課との情報共有等の連携強化に加え、景観アドバイスメーカーや実務研修の開催による県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上が必要である。</p> <p>④景観計画は、地域における景観に関する意識醸成や、社会経済情勢の変化等を踏まえて、適時適切な見直しが必要である。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村及び実施地区と連携を図りながら、各地区でコロナ禍でも取組可能な景観形成に向けた活動やワークショップ等を開催し、地域景観協議会設立に向け引き続き取り組んでいく。</p> <p>②シンポジウム等については、適切な開催方法を決定するとともに、来場者に加えネット配信閲覧者等も含めた集計を実施する。</p> <p>③景観評価システムの円滑な運用に向けて、引き続き、景観検討の前年度から事業課(所)との連携強化を図る。また、実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、引き続き、有識者を交えた景観アドバイスメーカー会議等を開催する。加えて景観評価システムに係る実務的な研修等の実施に継続して取り組む。</p> <p>④景観計画策定から10年を目処に、該当する市町村へ必要性の説明や情報提供を行うなど、改定に向けた見直し検討を働きかけていく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
62,800	62,800	50,240	12,560	0	0	0
<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象 事業費 62,800千円] --&gt; B[委託料 62,345千円]     A --&gt; C[事務費 455千円]     B --&gt; D[沖縄しまたて協会・ 丸正印刷共同企業体 15,785千円]     B --&gt; E[沖縄しまたて協会・沖縄の風 景を愛さず会共同企業体 15,947千円]     B --&gt; F[パシフィックコンサルタンツ株 式会社沖縄支社 17,039千円]     B --&gt; G[株式会社国建 13,574千円]     D --- H["(令和4年度沖縄の風景づくり復帰 50周年記念事業運営等業務)"]     E --- I["(令和4年度沖縄らしい風景づくりに 係る人材育成業務)"]     F --- J["(令和4年度沖縄県景観評価 システム運用支援業務)"]     G --- K["(令和4年度沖縄県景観向上行動 計画改定等業務)"]                     </pre>						

評価	点検項目	評価に関する説明	
資金の流れ、費目・使途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○シンポジウム運営等業務、人材育成業務、景観評価システム運用支援業務及び景観向上行動計画改定等業務の受託者については公募型プロポーザル方式により企画提案内容、実施体制、実績等を勘案した上でそれぞれ選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものを実施し、完了後の検査を実施することで、支出内容の確認を行っている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	